

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 第3回丹波篠山市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和7年5月8日(木) 13時30分から15時30分まで
*受付時間(13時15分から13時25分まで)
- 3 開催場所 丹波篠山市役所本庁舎3階301会議室
- 4 会議に出席した者の氏名
 - (1) 委員 中塚 雅也、横山 宜致、森本 秀樹、山田 俊朗、西尾 和磨、谷川 智穂、畑 富貴枝、今井 めぐみ、小田垣 昇、藤本 清仁、廣瀬 章江、足立 弘美、西田 正志
(敬称略・順不同)
 - (2) 執行機関 竹見 聖司、藤田 尚位、中瀬 文隆、西尾 友寛
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別 公開
- 7 会議資料の名称
第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について資料1、資料2
- 8 審議の概要
 1. 開会
 2. 委嘱状交付(丹波篠山市防災会議の消防団長の任期満了に伴い、令和7年4月1日より田中一裕消防団長から西尾和磨消防団長に交代)
 3. 協議事項
 - (1) 第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について

(事務局)

※事務局より資料1、2、基本目標1の主な変更点を説明※

(会長)

委員より何か意見はあるか。

(A 委員)

資料1の字体について、第1回の審議会でフォントやユニバーサルデザインの話があったように思うが、この字体は読みやすいと思う。

(B 委員)

12ページ主要な取り組みの概要の行政の役割の最後について、「シルバー人材センターに委託するなどの支援を行っています」と記載してあるが、他の文章は「～します」や「～行きます」になっている。ここだけ今行っている表現になっているがいかがか。

(事務局)

ここは「行います」がふさわしいかと思います。

(C 委員)

資料2の5ページの委員意見①について、この意見を受けて、資料1に二地域居住の言葉を追加したかと思う。ただ委員意見①は、関係人口や二地域居住のキーワードが2つ並んでいるように思う。関係人口はどこかに記載してあるか。この小目標で目指すことの「繋がり」というところに包含されているか。

(D 委員)

現状と課題の○2つ目が、おそらく関係人口に関わることだと思う。ここの地域づくりに関わる人が増えていきますというところをうまく関係人口というふうに表現していただくと、まさに今おっしゃったことが表現されると思う。

(事務局)

この小目標で目指すことの下から2行目「二地域居住など」の「など」に含まれてはいるが、今委員がおっしゃったように変更しても良いかと思います。担当課と調整します。

(会長)

居住にとらわれず、つながりを持つ人を増やしていこうというような記述を検討してい

ただきたい。

では次基本目標2に移ります。

(事務局)

※事務局より基本目標2の主な変更点を説明※

(E 委員)

前期基本計画では用語解説があったと思う。後期基本計画ではどの用語を解説するか。

(事務局)

わかりにくい表現に関しては担当課と調整をして、用語解説に載せるよう検討しております。

(E 委員)

どの用語を解説するのか線引きが難しいと思う。例えば資料1のP30ページの「新興感染症等」という用語や「こ食」という用語について、調べなければわからない。用語解説については委員で共通理解する必要がある。

(会長)

用語について、専門部会を中心にわかりにくい用語がしっかり反映されているかとか、この用語は必要じゃないかとか確認していただく機会が必要かと思う。市または審議会として大事なことは用語解説で記載すべきかと思う。

(E 委員)

資料1のP41の成果指標で待機児童が0になっているが正しいか。待機児童はいたように思う。もし0で間違いないのであれば、現状と課題の〇1つ目の記載が矛盾している。担当課へ確認してほしい。

(事務局)

待機児童の数含めて確認させていただきます。

(A 委員)

同じくP41のこの小目標でめざすことにおいて、「ふた葉プロジェクト」について記載してもらっているが、ふた葉プロジェクトがどういったものを載せるべきかと思う。前期基本計画では「眠育・食育・遊び」を総合的に推進する「ふた葉プロジェクト」と表現されているので、短くても良いので、記載しても良いと思う。

(会長)

おっしゃるとおりかと思う。

(E 委員)

P39 施策の展開の方向の My 助産師のところについて、誇れる制度だと思うので、そういった表現を少し入れていただけたらと思う。

(事務局)

承知した。

(E 委員)

P51 この小目標で目指すことの 3 段落目の「公民館や図書館等の社会教育施設は～」について、主語述語の関係でいくと、おそらく「社会教育施設は持続的発展に向けた活動を支援します」という主語述語の関係だと思う。2 行目の「必要な施設の整備を行い」というのは行政がすることかと思う。「必要な施設整備を行いながら」ぐらいの表現で良いかと思う。

(会長)

おっしゃるとおりかと思う。

(E 委員)

P51 現状と課題の〇三つ目、「より魅力ある社会教育施設とするためには機能や蔵書の充実を図るとともに～」というのは図書館のことか、それとも公民館のことかどこの話か。

(事務局)

蔵書であれば中央図書館になりますし、地域のコミュニティの拠点だと中央公民館かと思います。ひとくくりで社会教育施設というふうな形でありますので、そのあたり確認させていただきます。

(F 委員)

P18 のささやま医療センターの件について 7 月に一応結論が出ると思う。その結果を踏まえた文章にすればいいと思う。

(事務局)

専門部会で、そのようなご意見を頂いております。最終段階のところを記載していきたいと思っております。

(E 委員)

P52 の行政の役割を〇3 つ目、「公民館や図書館等の社会教育は～」の一文について、「地域の課題解決に向けた支援施設であること」の後に「を」が抜けているかと思う。

(事務局)

修正します。

(E 委員)

P49 成果指標の「子どもの居場所づくり推進事業「放課後子ども教室」に関わる児童・地域住民の満足度」の現状と目標について、現状 92%、目標 85%というのは、これは絶対的な目標か。

(会長)

満足度を減らすという考え方は適切か。

(事務局)

改めて確認をさせていただきます。

(B 委員)

P49 この小目標で目指すことに「加えて、青少年健全育成関係団体と連携し、青少年を取り巻く環境やインターネット（SNS）利用などについて学び～」というところ、本当にそうだと思う。小学生とかもスマホを持つような時代になっていて、現状と課題のところとインターネットとの関わり合いを明記するべきかと思う。

(事務局)

ご指摘のとおりかと思いますので、現状と課題のところでも記載を検討します。

(G 委員)

P46 について、成人式（20 歳の集い）で実施した若者未来調査のアンケートや郷土を愛するアンケートは反映していないのか。

(事務局)

20 歳の集いで集めたアンケートについては、去年だけ実施したものになっており、成人式に参加している人は基本的に篠山が好きだという人が参加しているので指標にならないという結論に至った。また、郷土を愛しているというアンケートを取っていないため、反映

していない。

(G 委員)

篠山を1回出たり、友達が外に出たり、地元に残ってる人の意見とか、今後の未来を背負っていく若者の意見は価値があると思う。郷土を愛しているという部分は、アンケートの質問の一つとして取るはすごく良いと思うので、二十歳のつどいでアンケートの実施を検討してほしい。

(会長)

アンケートや二十歳のつどい等に限定せずに、行政の役割のところできっと若者の意見を聞き取っていく役割は必要かと思うので、そのような記載で良いかと思う。

(事務局)

承知した。

(E 委員)

P43 の成果指標で、学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合の目標が 100%になっている。不登校の子もいるので、この 100%を目指すのは理想論だと思う。

(B 委員)

学校に行くのが楽しいって思う児童を 100%に持っていかうとなれば、行けない子は駄目という解釈になると思うのでやめてほしい。学校教育が全てではなく、いろんな子供たちの受け皿がフリースクール等いろいろある。そのような子たちがこれから私はすごく増えていくと思う。その子たちにとってそのフリースクールが楽しかったり、自分の道がそこで見つけられたら、それで良いと思う。

(E 委員)

学校教育の考えと総合計画に書いていることに少しずれがあると思う。担当課と調整していただきたい。

(会長)

指標としていいのかをもう一度議論いただいた方が良いかと思う。昔よりも多様な時代になってる中で、いろんな人がしっかり学べるのが丹波篠山市として大事だと思いますので、担当課ともう一度議論いただきたい。

では次基本目標 3 に移ります。

(事務局)

※事務局より基本目標3の主な変更点を説明※

(D 委員)

2点あります。まずP63のこの小目標で目指すことの3行目「農業関係者だけでなく～」という文章のところで、地域、丹波篠山市内の生産者や法人を中心としてという意味で書いていただいていると思う。この文章だけでは、なかなかそう読みにくい。市外やあるいは海外の法人が地域に根ざして支えて農業するというふうに見えるような気がする。まずは、丹波篠山市の生産者や法人、団体が中心となって、農地を守りながら、そしてそれだけではできない部分を多くのおもんなが関わっていくというふうな表現にさせていただくのがいいと思う。丹波篠山市で作る作物というのは他に比べても付加価値があるので、市外からやってみたっていう企業が来る恐れがある。そうすると市内の生産者や法人団体に影響が出る恐れがあるので、まずはその地域の生産者等が中心となって農地を守っていくという文章を考えていただければと思う。

2点目について、P67ページの主要な取り組みの概要の〇四つ目のところの最後、品質や収量の確保に向けて取り組みましようとなっているが、これを品質と収量の維持向上に向けて取り組みましようという表現の方がより良いかと思う。

(事務局)

担当課と調整をさせていただきます。

(G 委員)

P69の観光客入込数について、令和5年度時点で300万人と聞いている。数字がずれているのではないか。P71の外国人観光客数について、現状より目標が少なくなっている。正しい数字か。

(事務局)

1点目の300万人というのは県が指定する方法で集計をした報告数値であって、市独自のものとは違います。2点目については、10万人の間違いです。申し訳ありませんが、訂正をお願いいたします。

(会長)

10万人の根拠はあるか。

(事務局)

令和6年度を5万人と仮定して、年間1万人増えるという見込みで10万人にしております

す。

(会長)

承知した。他に意見はあるか。

(D 委員)

外国人観光客について、今城崎の観光客の約 2 割が外国人観光客だそうです。おそらく篠山も 2 割までいくとオーバーツーリズムになると思う。海外の方は秋にこだわらず、平日も来ていただけるので、関係部署と調整してもう少し増やしていただきたいと思う。例えば、今 200 万人以上来られてるうち、1 割ぐらい海外の方が来られて平日の賑わいを創出するというふうになれば良いと思う。

外国人観光客のところで、この 2 月に大阪観光局と丹波篠山市が連携協定を締結しました。この大阪観光局との連携は、兵庫県内で市と連携協定を締結しているのは丹波篠山市だけだと思う。これを活かさない手はないので、これを活用して海外の方も平日に増やしていくという方向性が打ち出していただけると良いと思う。

(会長)

観光に関して、別のところで議論はされているか。つまりどれぐらいが適正な規模でどうしていくかという観光に関する戦略とか基本計画はあるか。

(事務局)

丹波篠山観光まちづくり戦略はあります。

(会長)

そこで数字の設定はされているか。

(事務局)

設定しております。

(会長)

そこと整合性はとれているのか。

(事務局)

とれております。

先ほど大阪観光局との連携のお話があったと思いますが、連携先のうちの一つとして、特出しをしております。基本目標 3-3-1 の主要な取り組みの概要の行政の役割の〇二つ目、

「観光協会等市内外の関係機関と連携して～」というところに包含をしております。

(会長)

わかりました。他はいかがか。

(G 委員)

この小目標で目指すことについて、外国人観光客を迎える理由が日本国内の人口が減少し、高齢化社会を迎える中、日本を訪れる外国人観光客をターゲットに見据えますというのは、まちづくり戦略にこの文章が書いてあるか。前期基本計画の時はこの文章はなく、外国人がこれから増えると思うので、磨き上げていきますというように書いてある。このような考えはまちづくり戦略に書いてあるか。

(会長)

別の計画との整合性も含めて確認していただきたい。他にあるか。

(H 委員)

P63 ページの成果指標について、整粒重という言葉が難しいかもしれない。収量とかに言葉を直した方が分かりやすいかもしれない。

(会長)

ポイントというのもわかりづらい。現状 100 ポイント目標 120 ポイントだけではわかりづらい。

(副会長)

ポイントの説明書きを入れればいいのではないか。現状の収穫量を 100 ポイントとしてという説明を受ければ今が 100 なので生産量上げるの目標だというのはわかる。一見してこのポイントが何かわからない。

(H 委員)

専門部会で面積を示してはどうかという意見があった。この意見について、部内で検討したところ収量が低いところをまず上げることの方が良いとなった。

(会長)

指標の出し方についてはもう一度議論いただきたい。基準値を定めてそれを基準にしながら目標設定してしまうと、更新していくときに目標の設定値が定めづらい。10 年前と比べてどうかというところがわかりづらい。事務局でもう一度調整した頂きたい。

(E 委員)

反収を増やすことは、非常に難しい事だと思う。作付けを何とか現状維持するとか、これを食い止めないと特産でなくなってしまう。そういう目標の方が合理的かと思う。

(H 委員)

生産者はかなり減少して、生産者を増やすよりも水のやり方や栽培の工夫の中で収量を増やしていく方が大事かと思う。

(会長)

成果指標から作付面積がなくなっている理由は何か。

(H 委員)

生産者がもうこれ以上増えてこない中で面積の拡大は難しい。維持も難しいため。

(I 委員)

維持すること自体が難しいというふうにした方が、良いのではないか。面積を維持するというふうな目標はどうか。知らない人でもわかってもらえるように工夫するのも大事かと思う。

(会長)

そのあたりも事務局で調整していただきたい。右肩上がりだけが大事なわけではないので、現状をしっかりと捉えて、下げてでも数字を書くべきところはこれぐらいで止める等の目標を今後は考えていく必要があると思う。

(D 委員)

面積があった方がいいと思う。黒大豆や枝豆とか山の芋の個別が理想だが、前期の計画が849haという現状があって、目標として2025年に840haと減らしてある。よって当時からも維持するのは大変だということがあることであると思う。引き続いて、枝豆を除いた黒大豆と山の芋、小豆の面積を2030年に、これぐらいを維持するという目標がある方がよりわかりやすいと思う。

(会長)

そう思います。他いかがでしょうか。

なければ基本目標4に移ります。

(事務局)

※事務局より基本目標4の主な変更点を説明※

(会長)

P82の成果指標について、現状が14団体で目標が20団体となっている。前も同じ数字かと思う。何かうまくいっていない理由があるか。

(事務局)

現実的に増やすのが難しい現状にあると聞いております。

(会長)

目標は大事で、5年前の現状が14団体で5年たっても14団体になっている。その現状に対し、目標を再度20団体にするのというのは目標として適切か。もし14団体しかなくて15団体が目標であるのであれば、それで目標設定すれば良いと思う。努力目標でなくて目標として頑張る数字を入れていただきたい。

(事務局)

担当課と調整します。

(E委員)

P85の「丹波篠山市展」の作品出品者の成果指標について、現状と課題は市展の出品者数が減ってきているので、工夫するという書き方になっているがP86の主要な取り組みの概要のところ、市展の具体的な改善策がない。去年、来場者に投票していただくとか、丹波篠山市内の方の枠を作り、何か改善策をうったと思う。

(事務局)

この成果指標が現状維持になっているのも、応募する人たちが増えないという見込みでこの目標にしております。

(E委員)

教育委員会でも、何か改善するような話になっていたと思う。その辺りを確認していただきたい。

(事務局)

承知した。

(E委員)

そもそも減ってるから現状維持で良いとはならない。数ではなく内容だと思う。

(会長)

ありがとうございます。

では、基本目標5に移ります。

(事務局)

※事務局より基本目標5の主な変更点を説明※

(会長)

P92 成果指標が2つぐらい無くなっている。何か意味があるか。

次回にしっかりと議論した方がいいかもしれないが、どういった指標で政策評価していくのかというのが大事だと思う。例えば市の声を聞くとかは、市長が聞くだけじゃなくて、やはり市の職員がいろいろ聞いている声の方が大事だと思う。

(事務局)

指標がなくなっているのは、専門部会で研修の受講意義という成果指標とこの小目標を目指すことの整合性が取れないというご意見や、研修の受講意義の目標が70%以上となり、研修内容に問題があるのではないかというご意見を踏まえさせていただいて、新たに人事評価制度の指標に変えております。

(E 委員)

評価する側の問題もあるため、指標にするのは非常に難しいと思う。

(会長)

職員が頑張っていることはたくさんあると思う。信頼される市役所を目指すという中で、もう少しわかりやすい現状で頑張っていることを指標に入れて良いと思う。P93 ページの行政の役割にある研修の派遣とか地域サポート職員制度とか、すでにやっていることで客観的にわかるようなことを指標にした方が良いと思う。政策目標とか目指すべき方向性に沿ってもう少しわかりやすい評価があれば良いと思う。可能であれば検討いただきたい。では、基本目標6に移ります。

(事務局)

※事務局より基本目標6の主な変更点を説明※

(G 委員)

フィルムコミッションのことを追記してほしいがどうなったか。

(事務局)

基本目標 6-2-1 の主要な取り組みの概要の行政の役割の「マスコミ関係へプロモーション活動を積極的に展開します。」という部分に記載しております。

(G 委員)

フィルムコミッションは映画なども入ってくるため、マスコミとは少し違うと思う。

(事務局)

ご意見については、観光分野の目標で追加を検討していきたい。

(I 委員)

P99 の成果指標の「テレビ・ラジオなどメディアで報道された件数」について、現状の数値に対して目標が下がっている。この理由は何か。

(事務局)

担当課へ確認する。

(H 委員)

P98 の分野別計画の「丹波篠山市農都創造計画」について、計画期間が令和 8 年度から更新になる。P95 については、「令和 8 年度～令和 17 年度（予定）」になっている。書き方として、どちらが良いか。

(事務局)

どちらの書き方が良いか担当課へ確認させていただく。

(会長)

まちの魅力度、まちの認知度の目標について、これはどういう意味か。

(事務局)

こちらは担当課で設定した目標です。

(会長)

目標として適切か。魅力度、認知度を上げるということと順位を上げるということは違うと思う。もう少し調整していただきたい。

(会長)

これですべて終了になるが、資料Ⅰの全体をとおしていかがか。

(H 委員)

P35 の成果指標「ジェネリック医薬品の使用状況」について、目標が 80%になっているが、P36 の主要な取り組みの概要の市民・事業者に期待する役割のところ、「ジェネリック医薬品を使用することで医療費を抑制しましょう。」と記載がある。この目標は下がっていても良いか。

(会長)

「数量ベース」という言葉も含めて確認していただきたい。全国でどのくらいが適正なのかもわからないため、その辺りも含めて調整していただきたい。

(事務局)

承知した。

(H 委員)

P43 の成果指標「学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合」について、学校に行く生徒を対象にしているため、指標として適切なのかを見直していただきたい。

(事務局)

承知した。

9. その他

(事務局)

※事務局より文章の整理や圧縮を担当課と行って良いかの確認、今後のスケジュールについて説明※

(会長)

文章の整理や圧縮に関して、担当課と調整していただきたい。以上をもちまして丹波篠山市総合計画審議会を終了する。

今後の課題として発言するが、成果指標は文章よりもわかりやすく大事なものである。この指標についてどこまで達成できて、今後どういった施策が必要か、何ができていたかという議論が必要である。

また、成果指標そのものがこれで良いのかというところも今後の課題かと思う。次期の

計画策定の時の課題として発言する。

閉会にあたりまして、横山副会長よりごあいさつをお願いいたします。

10. 閉会

横山副会長あいさつ